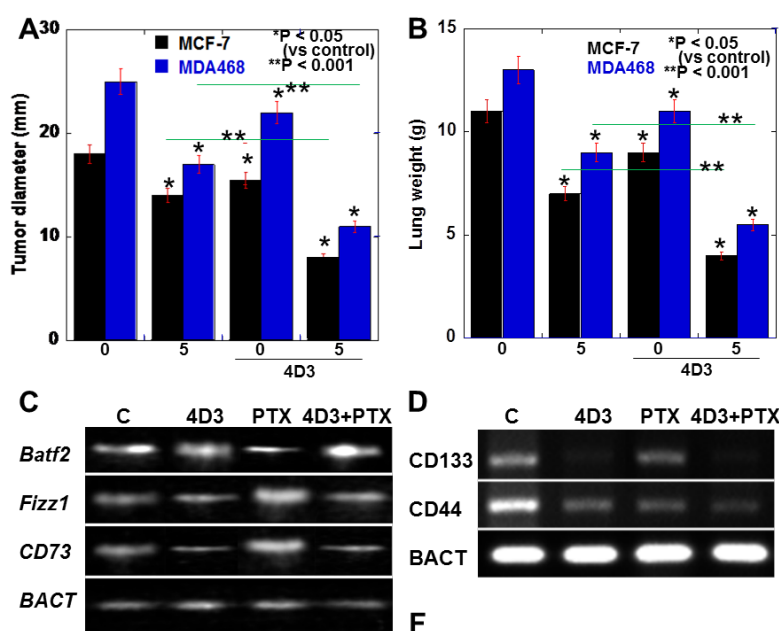


## 研究紹介

トリプルネガティブ乳癌の検討。

乳癌は最近増加が著しく、日本女性の顔による死因の第2位になりました。乳癌はその治療法で切除とともに乳癌が発現している受容体の状態が重視されます。乳癌が発現している受容体には、エストロゲンやプロゲステロンといった女性ホルモンや、増殖因子である HER2 などがあり、それらを標的とすることで高い治療の効果が得られます。これに対し、このような受容体を全く発現していない乳癌をトリプル、ネガティブ乳癌といい、その悪性度の高さと治療手段の乏しさが問題になっています。私たちは、トリプルネガティブ乳癌に特徴的に発現しているアンギオテンシン系受容体 MAS1 (1) や過剰発現しているクローディン 4 を治療標的(文献 2)とする有効性を明らかにしました。



エストロゲン感受性乳癌 (MCF7) とトリプルネガティブ乳癌 (MDA468) は、抗クローディン 4 抗体 (4D3) を抗がん剤であるパクリタキセル (PTX) と併用することにより PTX 単独よりも腫瘍径を低下させ (A)、肺転移を抑制した (B)。また、腫瘍間質内の腫瘍促進性の M2 マクロファージを減少させ腫瘍抑制性の M1 マクロファージを増加した。さらに間質中の間葉系幹細胞を減少させた。

## 文献

- Luo Y, Tanabe E, Kitayoshi M, Nishiguchi Y, Fujiwara R, Matsushima S, Sasaki T, Sasahira T, Chihara Y, Fujii K, Ohmori H, Kuniyasu H\*  
Expression of MAS1 in breast cancer.  
Cancer Sci. 106(9):1240-1248, 2015.  
doi: 10.1111/cas.12719.
- Luo Y, Kishi S, Sasaki T, Ohmori H, Fujiwara-Tani R, Mori S, Goto K, Nishiguchi Y, Mori T, Kawahara I, Kondoh M, Kuniyasu H\*  
Targeting claudin-4 enhances chemosensitivity in breast cancer.  
Cancer Sci 111(5):1840-1850, 2020.  
doi: 10.1111/cas.14361